日本の産業Ⅱ

科目ナンバリング　ECP-214
選択　　2単位

江本　伸哉

1. 授業の概要（ねらい）

❶春期（日本の産業Ⅰ）と秋期（同Ⅱ）と通年の授業ですが、秋期だけでも受講可能です。
❷鉄鋼業界は時代遅れの古い産業（オールド・エコノミー）の代表選手のように思われがちですが、実は日本が国際競争力を維持している数少ない基幹産業の1つです。この授業は、秋期の「日本の産業Ⅱ」と接続して通年の授業とします。
❸まず前半の「Ⅰ」（第1回～第15回）では、戦後日本の経済復興、高度経済成長を支えたわが国鉄鋼業界の波乱万丈の歩みを解説します。
❹続いて後半の「Ⅱ」（第16回～第30回）では、①かつて世界の鉄鋼業界をリードした欧米鉄鋼業界②日本が世界を席巻した後、台頭した韓国、中国、インド、ブラジル、台湾、インドネシア、ベトナムなど新興鉄鋼メーカーの追い上げを説明し、こうした中でわが国鉄鋼業界がなお国際競争力を維持している理由を明らかにします。さらにわが国鉄鋼業界が抱える課題も説明します。
❺全体としてわが国鉄鋼業の強みと泣き所を理解してもらい、日本の経済や社会を支える重要産業であることを知ってもらうのが狙いです。教科書はありません。毎回プリントを配ります。
❻授業で生じた質問、意見、感想、要望などは毎回「ミニッツペーパー」（MP）に書いて提出してもらい、それに対する私なりの回答をまとめた「MP通信」を次の授業で配ります。

2. 授業の到達目標

❶戦後の日本経済においてわが国鉄鋼業が果たした役割を理解する。
❷世界の鉄鋼業界が大きく変動する中でわが国鉄鋼業界の位置づけを理解する。
❸新興国が追い上げる中でわが国鉄鋼業界がなお国際競争力を維持している理由を理解する。
❹日本の鉄鋼業界が抱える課題を理解する。

3. 成績評価の方法および基準

❶出席3分の2（原則として15回中10回。公欠は除外して計算）未満の場合は「D再試なし」とします。
❷MP点60点（MP1回4点×15回＝60点、公欠1回2点＝証明書提出）。
❸期末レポート40点。
❹MP上で特に鋭い質問、なるほどという意見、感想、要望には、❷❸と別に特別加算（10～20点）します。

4. 教科書・参考文献

参考文献
稲山嘉寛　私の鉄鋼昭和史　東洋経済新報社
永野重雄　君は夜逃げしたことがあるか　私の人生経験と経営理念　日刊工業新聞社

5. 準備学修の内容

❶「日本経済新聞」など新聞、「日経ビジネス」「週刊エコノミスト」「週刊ダイヤモンド」など経済誌で鉄鋼業界に関する記事を意識的に読むようにしましょう。
❷参考書に挙げた『私の鉄鋼昭和史』は八幡製鉄社長、新日本製鉄社長、経団連会長を歴任し、「我慢の哲学』を経済界に説いた稲山嘉寛さんの自叙伝です。『君は夜逃げしたことがあるか』は富士製鉄社長、新日本製鉄会長、日本商工会議所会頭を務めた永野重雄さんの自叙伝です。図書館にはあると思います。

6. その他履修上の注意事項

❶出席が3分の2（原則10回、公欠分を除いて計算）未満の場合は（期末レポートを提出しても）単位を与えません。
❷公欠の場合は1か月以内に届けを出してください。
❸途中休憩5分（私語、スマホ操作、水分補給、トイレ、体操可）
❸休憩時間以外の私語、スマホ操作、水分補給、トイレ、体操は原則として禁止です。注意しても改めない場合は退場してもらいますので、その日のMP点4点を失うことになります。

7. 授業内容

【第1回】　春期（Ⅰ）
ガイダンスーー自己紹介、授業の進め方、評価方法、約束事、グラフで見る日本鉄鋼業と日本経済
【第2回】　戦後復興――八幡集中生産と傾斜生産方式
【第3回】　朝鮮戦争特需――日本経済復活の最大の要因
【第4回】　設備近代化――米国に追い付き、追い越せ
【第5回】　「七色の煙」が鉄鋼人の誇り――高度成長の熱狂の中で
【第6回】　光化学スモッグ、水質汚濁――公害の発生と克服（外部不経済）
【第7回】　北九州・戸畑に銑鋼一貫製鉄所――臨海埋立地で高効率、低コスト生産
【第8回】　首都圏に一貫製鉄所ラッシュ――需要地立地、一極集中加速
【第9回】　八幡・富士「世紀の大合併」――プライスリーダーつくり「撃ち方やめ」
【第10回】　新日鉄シームレスパイプ進出――オイルショック、高度成長の終焉が裏目に
【第11回】　高炉休止、人員大幅削減――「プラザ合意」後の円高不況で未曾有の赤字
＝春期　期末レポート出題
【第12回】　スペースワールド誕生――複合経営へ半導体、テーマパーク……何でもやる
【第13回】　スペースワールド売却――本業回帰、不採算部門整理（複合経営路線は放棄）
【第14回】　川鉄・日本鋼管経営統合、新日鉄・住金合併――ゴーン・ショックまざまざ
【第15回】　日本製鉄」復活――新日鉄住金、日新製鋼完全子会社化
＝春期　期末レポート提出締切
＝春期（Ⅰ）終わり
【第16回】　ここから秋期（Ⅱ）
ガイダンス（自己紹介、授業の進め方、評価方法、約束事）
鉄の特徴――埋蔵量多く、安価で硬くて加工しやすい
製鉄法の変遷――高炉法、電炉法の確立

【第17回】　欧州――近代鉄鋼業発祥の地、今はインド資本の傘下に
【第18回】　米国――投資怠り、過去の栄光遠く、ミニミル健在
【第19回】　韓国①――POSCO成功の陰に八幡・富士の全面技術協力
【第20回】　韓国②――現代財閥・鄭父子、苔の一念で現代製鉄開業
【第21回】　中国①――宝山鋼鉄、『大地の子』の陰に稲山嘉寛の贖罪
【第22回】　中国②――世界生産量の半分以上占める鉄鋼大国、大半は「ダモノ」
【第23回】　インド①――「鉄くず拾い」からM&Aで世界一へ、ミッタル旋風
【第24回】　インド②――2018年日本抜き生産量世界2位躍進、潜在成長力巨大
【第25回】　ブラジル――日伯経済協力の象徴、米国の裏庭、現地資本との確執
【第26回】　台湾――中国鋼鉄、ベトナムで新日鉄住金と下工程、JFEと高炉建設
＝秋期　期末レポート出題
【第27回】　インドネシア――国営クラカタウ、POSCOと組みASEAN初の高炉稼働
【第28回】　わが国鉄鋼業が国際競争力を維持する理由①――モノづくりのDNA（カイゼン活動）
【第29回】　わが国鉄鋼業が国際競争力を維持する理由②――顧客・自動車との絶えざる共同開発
【第30回】　わが国鉄鋼業の課題――挑戦心の希薄化（ASEAN・インド投資、新製鉄法開発）
＝秋期　期末レポート提出締切
＝秋期（Ⅱ）終わり